

令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」＜富山県朝日町教育委員会＞

(AIの活用による英語教育強化事業/AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)



- ☒ 話すこと ☒ 書くこと ☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実 ☒ 授業での活用 ☒ 家庭学習での活用
- ☒ パフォーマンステストでの活用 ☐ 課外活動での活用

実践の ポイント

子供一人一人が主語となる授業づくりにおける生成AIの果たす役割や 期待される効果の検証

実証概要

＜校数＞3校(小学校:2校、中学校:1校) ＜人数＞307名(小学校:124名、中学校:183名)
＜学年＞小学校:第5、6学年、中学校:第1、2、3学年 ＜アプリ等＞「ELSA for Schools」(駿台教育センター株式会社)
＜AI機能について＞
○語彙習得機能(課題配信可能)○発音機能(成果をAIが評価)○ロールプレイ機能(CEFRレベルの測定)

AIの効果的な活用方法や取り組み(中学校での取組)

●「いつでも」「どこでも」「何度でも」

生成AIアプリに身に付けさせたいコンテンツを入力して、子供が「いつでも・どこでも・何度でも」学習に取り組むことができるようにした。生成AIアプリからのフィードバックが子供の学習意欲の向上につながり、「もっと正確に発音したい」「もっとスムーズに英語で対話したい」等、子供は積極的に言語活動に取り組むようになった。教師は、スタディ・ログを確認し、子供にフィードバックすることで、意欲だけでなく、正確な発話力の向上につなげた。

●新たな学習のパートナー

毎時間の授業において、生成AIを「学習のパートナー」と位置付けた。「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「誰と学ぶか」を子供に委ねる授業づくりに取り組み、子供が自分で選択しながら自分の学習をデザインできるようにした。「生成AIと練習してから、友達や教師と練習する」など、子供が自分で生成AIをどのように活用するかを自己決定できる場面を設定した。

実践成果の検証結果(AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

【小学校】
ALTによるパフォーマンステストを実施した。特に下位層、中位層での伸びが顕著であった。
【中学校】
生成AIによるCEFRレベルの測定を実施。約36%の生徒のスコアが上昇。特に成績上位層での伸びが顕著であった。

②児童生徒の関心・意欲の変化

生成AIの活用によって…
【小学校】
・授業が楽しくなった …91%
・自分のペースで学習できる …88%
【中学校】
・授業が楽しくなった …84%
・自分のペースで学習できる …80%

③教師の指導の変化

【教師の負担軽減】
生徒が英文を書く際には、これまでは教師が一人ひとりのノートを確認していたが、AI利用により、文法やスペル等、より適切な語彙の提案をその場で生徒に提示できるようになった。これまでの英作文を添削する時間が大幅に削減された。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み(AI英語活用リーダー事業)

●授業づくりに生成AIを

AI英語活用リーダーの資質を高めるために、大学教授や有識者を招聘した講演会や研修会を開催した。AI英語活用リーダーが授業を公開し、その授業に対して①授業づくりのポイント、②生成AIの効果的な活用方法を中心に指導助言をもらった。その後、各校で生成AIアプリを使った模擬授業を実施した。生成AIの利用そのものが目的化しないように、「協働学習のパートナー」「大切な学習道具の一つ」と位置付け、児童生徒が主体的に授業に取り組むことができる単元構想について学びを深めた。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み(AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

○成果

- ・生成AIとの会話により、発話量が増加。英会話に慣れることにより英語力の向上が期待される。
- ・個別最適な学習が成立しやすい。

●課題

- ・生成AIが不自然な表現や、不適切な内容を出力する可能性がある。ハルシネーションを見抜く力が必要である。
- ・子供だけでなく教師の情報活用能力の育成が急務である。

☆今後の取り組み

- ・「生成AI自体を学ぶ授業」「使い方を学ぶ授業」の授業研究を推進し、教師も子供も生成AIを適切に使う力を高める。